

「年頭の所感」

市長

皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

2期目の最初であり、1期目から通算すると5回目となりますが、年頭の所感をお伝えさせていただきます。

まず、昨年を振り返りますと、やはり新型コロナウイルスへの対応で明け暮れた1年となりました。8月の第5波においては、1日の新規感染者数が100人を超える日もあり、医療体制は本当にギリギリのところでした。市民の皆さんにはさまざまなご辛抱と大変な我慢をお掛けしましたが、皆様のご理解とご協力があり何とか乗り越えることができました。

改めまして深く感謝を申し上げたいと思います。

とりわけ医療従事者をはじめ、エッセンシャルワーカーの皆様の連日連夜にわたるこれまでのご尽力に心から御礼を申し上げたいと思います。そのお陰をもちまして、この2年近くにわたるコロナとの戦いにもようやく出口が見え始めていると思います。

しかしながら年末には、新たな変異株の出現などがあり、まだまだ予断できる状況では決してありません。3回目のワクチン接種も開始しておりますが、もうしばらくの間は、市民の皆さんには感染対策の徹底の継続をお願いすることになると思っています。

ただ、そのような中でも、今後のwithコロナの社会をしっかりと見据え、未来に向け、着実に前に進んで行かなければならないと思います。

昨年はコロナに終始した1年と思われがちですが、横須賀市は、確実に前に進むことができたと思っています。

3月には住友重機械工業より浦賀ドックとその周辺地のご寄附があり、また5月には、横須賀市全体を1つの大きな博物館としてとらえるルートミュージアムの拠点となる、ティボディエ邸がオープンいたしました。7月には、横須賀市と北九州市を結ぶ高速フェリーの就航があり、そして9月には、中学校給食をスタートさせることができました。

さらに今年は、ポートマーケットのリニューアルをはじめ、中央こども園や横浜F・マリノスの練習拠点、そしてヴェルニー公園内には新しいレストランのオープンなどを予定しています。

私はこのような新しい流れを契機に、横須賀への注目を高め、投資を呼び込み、多くの人に訪れていただくことで、地域経済の好循環を作り出したいと考えています。

市役所においても、赤ちゃんから年配者まで一貫してお支えができるよう、福祉、健康、子ども育成を総括的に一括して所管する、民生局を設置いたしました。

今年4月からは、さらに地域活動についてもその所管に加えることにより、市役所はより身近なところで市民生活を支えることができる存在となれるよう目指してまいりたいと思います。

そして横須賀で暮らすすべての人々が、お互いを認め合い、手を取り合って慈しみあい、助けることのできる「だれも一人にさせないまち」にしていくことが私に課せられた使命だと思っています。

私はことしの言葉に、ここにある「新流」を選びました。

今年はコロナ禍からの再生のため、横須賀から新しい流れを生み出し発信していく。そして、こうした一連の流れの中で、令和4年が将来において、横須賀の発展の歴史の第2章の始まりであったと、市民の皆さんに誇れるような1年にしたいと考えています。

以上が、私からの令和4年の年頭の所感となりますが、続けてこのような機会ですので、改めて、現在の横須賀市のコロナに対する防疫体制についてご説明をさせていただければと思います。

まず、ワクチンですが、年末に3回目の接種計画の予定をお伝えいたしましたが、オミクロン株の感染拡大の懸念があるため、可及的速やかな前倒しの検討を指示いたしました。今週中には、また新たな計画をお伝えできると考えています。

また、感染の検査については、PCRセンター、第2PCRセンター、そして医療機関等に加え、薬局等でも抗原検査やPCR検査が受けられるようになっていきます。この段階で陽性と判明した場合には、横須賀市の健康安全科学センターで、オミクロン株の疑いかどうか、1日あれば調査可能となっています。

オミクロン株の陽性が疑われる感染者については、原則入院での対応となりますが、市内病院の入院の受け入れ準備はすでに完了しています。

また、重症化リスクが高い方に対して行う中和抗体療法については、医師会を中心にして、療法に至るまでのシステムが確立しています。

最近承認された経口薬についても市内の医療機関、薬局で処方する準備を進めています。最後に保健所の疫学調査も人員を充実させ、強力な態勢を整えています。

このように横須賀市では、事前に備えることのできることはすべて備え、市民の皆さんに健康と生命を守るため、万全を期しています。

是非、市民の皆さんにおかれましては、新たな変異株といえども、過剰な心配をされずにこれまでと同様の感染症対策をお願いしたいと思います。

どうぞ今年も、引き続きよろしくお願いを申し上げます。以上です。

記者

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

2件質問します。

まず、横須賀市の健康安全科学センターでオミクロン株かどうか、1日あれば調査可能ということでしたが、すでにオミクロン株は検査で出ているのでしょうか。

健康部長

現在、国内ではデルタ株かオミクロン株であろうという前提で、デルタ株の検査をしています。

そこで陰性だった場合には、ほぼオミクロン株であるという疑いの元、遺伝子解析検査の方に回すというような流れになっています。

ただ、近々直接、オミクロン株を検査できるようになるという話もあるため、決まり次第、早急に始めたいと思っています。

記者

もう1件ですが、年末に米海軍横須賀基地で75人の感染が確認され、横須賀市からも確認と申し入れが行われたかと思いますが、このことについて確認させていただきます。

まず、その陽性者の大部分は空港検疫で陽性が確認されたという報告がありました。他県においては米軍基地のスクリーニングの部分で問題になっていますが、横須賀については入国時に確認されたという理解でよろしいでしょうか。

市長

そうです。

記者

横須賀市から基地内での更なる感染拡大防止について、改めて徹底を申し入れたとありますが、どのような防止策を申し入れたのでしょうか。

市長

まず、保健所と米海軍病院は常に連携しており、常に保健所の管理下にあるということを理解していただければと思います。

いまだ、市内の感染者が少ないということであるならば、米軍の中でもきっちりとした管理ができていると確信しています。

基地内にも家族や従業員がいらっしゃるので、昨年12月30日、改めて、徹底した管理をするよう申し入れをさせていただきました。

また、本日も賀詞交歓会でジャレット大佐にお会いし、お話をさせていただいたのですが、警戒領域のレベルを1つ上げて管理体制をしっかりとするとおっしゃっていたので万全な体制をひかれるのではないかと確信をしています。

記者

神奈川県からも外務省と防衛省を通じ、基地からの外出制限の強化や基地従業員の定期検査などを申し入れたという報道もありました。その外出制限の強化や基地従業員の定期検査について、具体的に横須賀市から申し入れたわけではないということですか。

市長

昨年末より、全駐労に対し、基地従業員等の検査はいつでもできるという話をしています。

私たちは米海軍病院と連携を取りながら、直接話し合い、直接申し入れるということを徹底しているので、徹底した管理体制になっていると確信しています。

記者

75人の感染者について、オミクロン株であるかという情報は入っていますでしょうか。

市長

ありません。

記者

他県では日本人基地従業員の感染確認や、それに伴い、市中感染が広がるという事例があるようですが、横須賀市はどうでしょうか。

市長

現在のところ横須賀市ではありません。

この2年間、どのような状況にあらうとも米軍の中で管理をしていただきたいということについて、常々、話し合いを行っています。今後も予断は許しませんが、お互い情報交換をしながら徹底した管理に努めていきたいと思っています。

記者

12月23日から30日の8日間での感染者が75人、ほとんどが入国時の空港検疫で陽性が確認されたということですが、米軍の感染対策の12月23日付の政策変更を見ると、12月26日から米国を出国する72時間前にPCR検査または抗原検査を受け、陰性の場合、日本への出国ができると記載があります。

このように、途中から出国時の検査が厳しくなっていますが、23日から25日にワクチン2回接種が条件ではありますが、PCR検査を受けずに入国した米兵等の方々も空港検疫でしっかり確認できているという認識でいるのでしょうか。

市長室特命参与

補足させていただきます。

政策が変わり、72時間以内に検査を行い、陰性証明を持って入国します。その後、入国時検査や、基地に入り14日間の移動制限があるため、そこで陽性が確認される方もいます。

記者

そうなるという所謂、ロムの話になると思うのですが、空港検疫で陽性であれば、その場ないし米軍の施設内で隔離される。また、空港検疫で陰性だったとしても、従来のロムに従い、基地内に入った後も検査を行い、その間は人と接触しないようにしているということでしょうか。

市長

それは必ずやっていたらと確認しています。

市長室特命参与

海兵隊の場合、米軍検疫のルールで直接基地に入国し、14日間隔離するというような措置をとっていたと思います。ただ、米海軍の場合は、民間機を使って入国するので、そこから14日間は、公共交通機関は使用しないことが徹底されていると我々は承知しています。

記者

要するに陰性の方であっても、外部と遮断されているということによろしいのでしょうか。

市長

はい、そういうことです。

記者

本日のやり取りの中で、神奈川県から外出制限の要請があり、現在、基地内において制限をかけているというような話がありましたか。

市長

ありません。

市長室特命参与

12月31日に神奈川県が外務大臣と防衛大臣に緊急要請をしたという情報は承知していますが、それ以降の情報はありません。

記者

PCR検査について、先ほど基地従業員の方もいつでも検査できるというお話でしたが、1日あたり何人まで受けられるのでしょうか。

市長室特命参与

沖縄のキャンプハンセンの件があり、全駐労に対し、エッセンシャルワーカーで希望する

方は横須賀市の保健所の行政検査をするという情報を口コミで流しておりますが、現在のところ、希望者はいません。

記者

1日あたり、可能な検査数はどのくらいですか。

健康部長

横須賀市のPCR検査の検査数としては、約300です。

現状、日々、100前後の検査を市民の方が受診されていますので、そのキャパシティまでの範囲であれば、基地従業員の方々も検査が可能です。

記者

クラスターが出て以降も、基地従業員の方から希望はないということでしょうか。

市長室特命参与

12月30日に75人の感染が確認されましたが、以降、年末年始に検査希望の連絡はありませんでした。

記者

オミクロン株かどうかという情報が入っていないということですが、これはオミクロン株かどうかという確認をしているのかということについても情報がない。もしくは、オミクロン株であるか確認はしているが、その結果が分からない。どちらでしょうか。

市長室特命参与

前者です。

記者

先ほど米軍が警戒レベルを上げるというような話をされたと思いますが、この警戒レベルは何段階あり、現状のレベルとどのレベルまであげるのかということをお教えください。

また、いつからレベルをあげるのかも併せてお願いします。

市長室特命参与

明日から、HPCONのレベルを現行のアルファからブラボーに1段階引き上げると聞いております。

記者

外出制限など変わりますか。

市長室特命参与

レベルは何段階あり、どのような内容であるのか後ほど回答させていただきます。

記者

お願いします。